



JICA (国際協力事業団) の「日系社会シニアボランティア」として、平成14年7月からメキシコで日本語教師として活躍されている仕切晴治さん(萩原)から2回目のニュースレターが届きました。

メキシコの日系社会

みなさんは、日系移民というところなことを想像されますか？

これまで私の頭にあったのは、ハワイとブラジル、パイナップル畑とコーヒー園という程度のものでした。

皆さんも、同じような連想をされるのではないのでしょうか？

メキシコの日系社会が、他の中南米諸国と大きく違うのは、日系人が集団で生活する「コロニア」がほとんど存在しないことです。



メキシコでは、1897年、当時の外務大臣榎本武揚(五

稜郭の戦いで知られる)により実施された、中南米で最初の国策農業移民(榎本植民団)がかんばしくない結果に終わって以来、「国策としての集団農業移民」が行われませんでした。

メキシコの日系移民たちは、戦後の商売目的の移民は別として、多くは民営の移民会社による自由移民として、ある人は農業、ある人は鉱山労働者、なかには米国との国境をまたいだ漁船に乗り組んだりさまざまな形態でメキシコに移住して来しました。

今現在、1万〜1万5千人といわれる日系人たちが、勤勉で優秀なメキシコ市民として、各地各分野で活躍しています。

受け継いでいきたい日本の文化

メキシコの日系社会では、二世世代が私より少し上、日本風にいえばそろそろ年金生活に足をいれはじめた年代です。わたしの住んでいるプエブラという町は、人口120万人と、広島市と同規模の大

都市ですが、ほんの百数十人程度しか日系人が住んでいません。

それでも、二世世代の方たちが中心になって、日本の文化や伝統(もちろん言葉も)を守り抜こうと、必死の努力をしておられます。



また、この先、三世世代へなんとか自分達の思いを生かしながらバトンタッチしたいという思いも、当然ながら強く持つておられます。

そんな方々の努力を、少しでも手助けさせていただくのが我々の任務です。

私はこんな幸せな仕事ができる場を得られたことを、本当にありがたく思っています。

※「日系社会シニアボランティア事業」は、JICA(国際協力事業団)により1990年度から始まった中南米地域の日系社会へ日本の中高年層を2年間派遣する事業です。

(企画課)

じんけん

「いじめ」環境を考える

「いじめ」は成長の段階にある子どもの人権の問題です。



「いじめ」の背景については家庭環境や社会環境など様々な状況から生じるものと思われま

っては環境の一部であること忘れてはいけません。「いじめ」は、子どもの社会で起こっている問題ですが、それは社会全体の問題であることを忘れてはならないと思います。この問題を解決するためには、学校を始めとする教育機関、家庭、地域社会が一体となって子どもを一人の人間として尊重し、豊かな心を育てていこうとする大人の意識が必要



その中でも、子どもたちの人間関係の未熟さやストレスの増大などが原因として挙げられていますが、とりわけ家族や地域の大人である私たち一人ひとりも子どもたちにと

(住民課人権推進室)

TEL 820-5604